Panasonic

日本語

松下幸之助の思いを、次の未来へ。

パナソニック創業者・松下幸之助は、「企業は社会の公器」という経営理念を確立し、「事業を通じて社会に貢献する」ことを実践するとともに、企業人としての枠を超え、広く人類の繁栄と幸福を願い、その実現に情熱を傾けてきました。

「パナソニックミュージアム」は、松下幸之助の言葉や、歴代の製品を通して、その熱き思い、パナソニックの“心”を未来に伝承し続けたいという思いから、広く皆様に開かれた豊かな学びの場として開設いたしました。

社会、経済、産業・・・あらゆる面で大きな転換期にある今日、“社会の発展のお役に立つ企業”であり続けるために、パナソニックは今後も経営理念に立脚し、新しい未来を切り拓いてまいります。

さくら広場

日本人の心の象徴といわれる桜、ソメイヨシノ190本を配した桜一色の公園です。年間を通じて、自然を楽しむことができる憩いの場です。

松下幸之助 門真旧宅

1933年、門真の地に本社・工場を移した際、松下幸之助の住居として設けられたものです。

※限定公開

大観堂

真言宗醍醐寺派の僧侶であり、創業期から松下幸之助のよき心の支えとして当社の発展に寄与された加藤大観師。その遺徳と功績をしのび、1956年に建立されました。

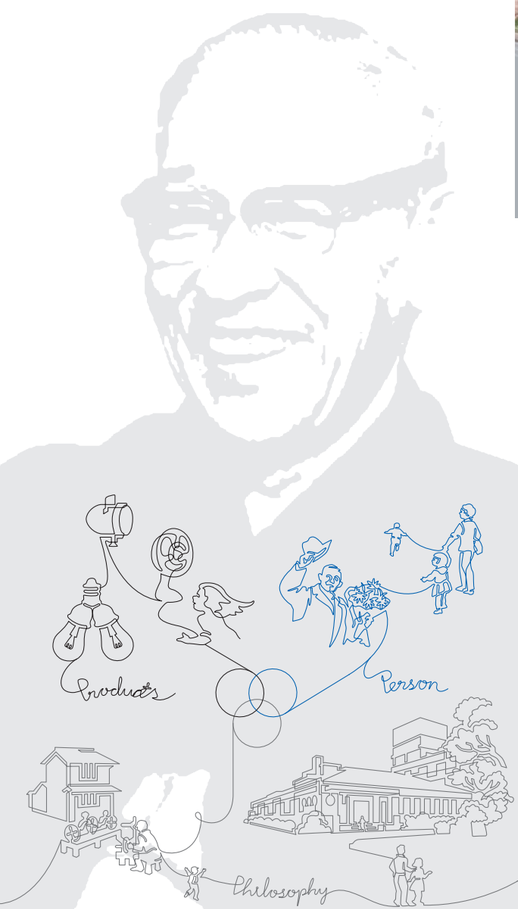
※限定公開

創業100周年記念モニュメント

Time Waterfall - Panel #2
宮島達男

浮くかたち－垂
Floating form-vertical 2018
植松奎二

気流 風になるとき 2018
西野康造



パナソニック ミュージアム

松下幸之助 歩みつづけた94年

店主主人といっしょに
幸之助のもっとも古い写真

1894 和歌山県海草郡和佐村で誕生
1904 小学校4年で中退、大阪の宮田火鉢店に丁稚奉公
1905 五代自転車店に奉公
1910 大阪電燈に入社
1913 関西商工学校の夜学に通う
1915 井植むめのと結婚
1917 大阪電燈を退職し、ソケットの生産・販売に着手

創業の頃の家族写真
後列左から/幸之助、義弟・井植歳男、妻むめの　前列/むめのの三姉妹

1918 松下電気器具製作所を大阪市大開町に創立
1922 第一次本店・工場を建設
1923 砲弾型電池式自転車ランプを開発
1927 角形ランプを「ナショナル」の商標で発売
1929 綱領・信条を制定
1932 第1回創業記念式典を挙行(所主告辞を発表)
1933 事業部制を導入
門真地区に本社・工場を建設
遵奉すべき五精神を制定(1937年に七精神に改定)
1934 店員養成所を開設
1935 松下電器貿易株式会社を設立
基本内規を制定
松下電器産業株式会社に改組

PHP創刊号

1940 第1回経営方針発表会を開催
1946 GHQより7つの制限を受ける(1950年までに解除)
PHP研究所を創設
1951 初めて欧米を視察
1952 フィリップス社と提携
1955 アメリカ向けスピーカーの輸出に
「Panasonic」ブランドを初めて使用
1956 5カ年計画を発表(売上220億円を800億円に)
1959 戦後初の海外販売会社として「アメリカ松下電器」を設立

フィリップス社との提携に調印

1961 会長に就任
戦後初の海外製造会社「ナショナル・タイ」を設立
1962 「タイム」誌のカバーストーリーで世界に紹介される
1964 熱海会談(全国販売会社代理店社長懇談会)を開催
「ライフ」誌に紹介される
1965 週5日制を導入

熱海会談

1970 日本万国博に松下館を出展
1973 相談役に就任
1979 マレーシアからパングリマ・マンク・ネガラ勲章を受章
中国を訪問し、鄧小平副首相(当時)と懇談
1980 松下政経塾を開塾
1983 日本国際賞を提唱し、初代理事長に就任
1987 勲一等旭日桐花大綬章を受章
1989 4月27日、死去

●京阪電車/西三荘駅下車 徒歩2分
●大阪モノレール/門真市駅で
京阪電車に乗り換え

パナソニックミュージアム

〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006番地
TEL. 06-6906-0106
開館時間 / 10:00～17:00
※開館時間は変更になる場合があります。
休 館 日 / 日曜日・祝日・お盆・年末年始
入 館 料 / 無料
駐 車 場 / 普通乗用車10台、大型バス4台収容可能

パナソニックミュージアム

https://holdings.panasonic/jp/corporate/about/history/panasonic-museum.html

●無断での転載はお断りいたします。記載内容は2022年5月現在のものです。

松下幸之助歴史館の展示エリアでは、LEDの光を活用して、お客様のスマートフォンに、お好みの言語で情報を表示する多言語対応ソリューションを導入しています。

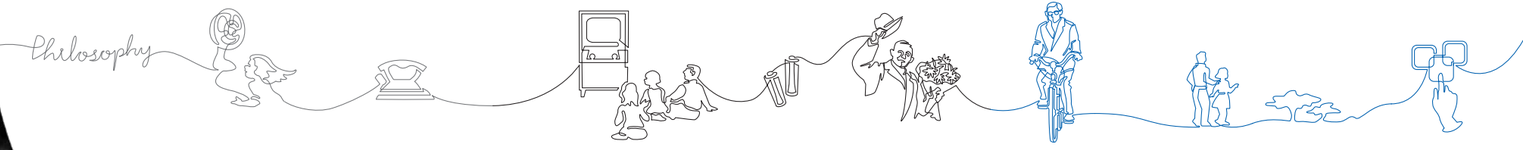
LinkRay

【対応言語】日本語・英語・中国語(簡体字)・中国語(繁体字)・韓国語・タイ語・インドネシア語・ベトナム語・スペイン語

QRコードからお客様のスマートフォンにアプリをインストールしてください。

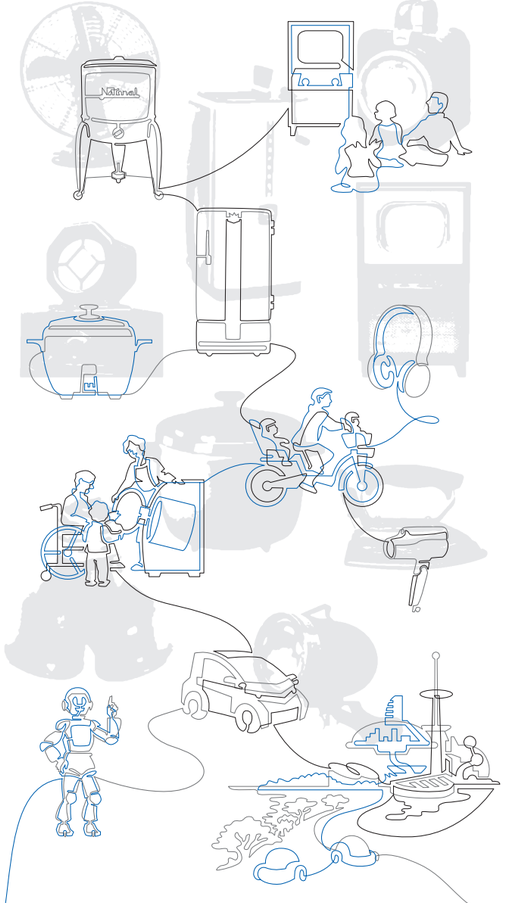
Download on the App Store

Google Play で手に入れよう



Panasonic

日本語

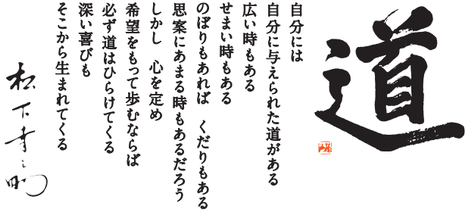


パナソニック ミュージアム

松下幸之助歴史館　ものづくりイズム館

さくら8°広場

松下幸之助歴史館　松下幸之助に出逢える場所



創業の家

1918年3月、松下電気器具製作所として創業した当時の作業場を再現。高い志に満ちた雰囲気を感じていただけます。

ライブラリー

松下幸之助の言葉をより深く読み解いたり、パナソニックの膨大な保存記録データなどをご覧いただけます。

ミュージアムショップ

松下幸之助関連の著書やグッズをお買い求めいただけます。

1933年竣工の第三次本店があったまさにその場所に、当時の趣を忠実に再現した建物を最新技術で新築復元。松下幸之助94年の生涯を“道”としてたどりながら、幾多の苦難を乗り越えるなかに松下幸之助が見出した経営観や人生観を学ぶことができます。

1章　大阪で商人の礎を築くとともに、電気事業に目覚める

礎 1904年ー

9歳のときに親元を離れ、大阪の五代自転車店で奉公を始めた幸之助は、ここで挨拶の仕方や頭の下げ方など厳しくしつけられ、商売の基礎を学ぶ。

2章　松下電気器具製作所を開業する

創業 1918年ー

大開町（現在の大阪市福島区）に松下電気器具製作所を開業。考案した配線器具の「アタッチメントプラグ」などは、品質がよく価格も安かったため評判になる。

3章　産業人の真の使命を知り、事業家として会社の基礎を築く

命知 1932年ー

人間には精神的安心と物質的豊かさが必要であり、生産者の使命は物資を豊富にかつ廉価に生産提供することである、との思いに至る。

4章　戦後の混乱を目にし、人間本来の姿を探究する

苦境 1937年ー

戦争の痛手から再建を目指す幸之助は、これが人間本来の姿なのかという強い疑問を抱き、人間社会の意義について、さまざまな思いを巡らせる。

5章　アメリカで鮮烈な体験をし、世界的な観点からの経営を志す

飛躍 1951年ー

「日本にもこんな豊かな生活をもたらしたい」との決意を胸にアメリカ視察から帰国した幸之助は、日本における電化の普及を牽引していく。

6章　高度経済成長の行き過ぎを警告し、不況打開に動く

打開 1961年ー

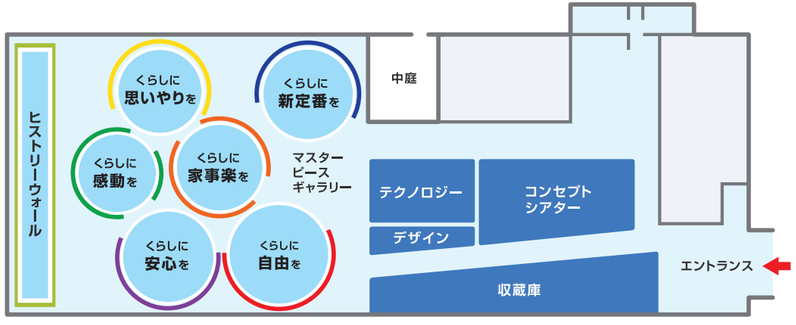
金融引き締めが強化され、販売会社にも経営悪化が目立ち始める。幸之助は、販売会社との懇談会（熱海会談）を開き、不況打開に全力で傾注していく。

7章　日本の未来を志向し、理想的な社会の実現に向けて動く

経世 1968年ー

1973（昭和48）年、幸之助は会長の職を退任、相談役に就任。経営に一線を画した幸之助は、憂国の情を強くしていく。

ものづくりイズム館　パナソニックの、ものづくりのDNAを探る場所



創業以来、家電製品を核に、常に新しいくらし文化を創造し続けてきたパナソニックならではの、“ものづくりスピリッツ”。圧倒的なボリュームを誇る歴代製品をご覧頂きながら、ものづくりに情熱を注いできた、数多の先人の熱き思いに触れて頂けます。

収蔵庫

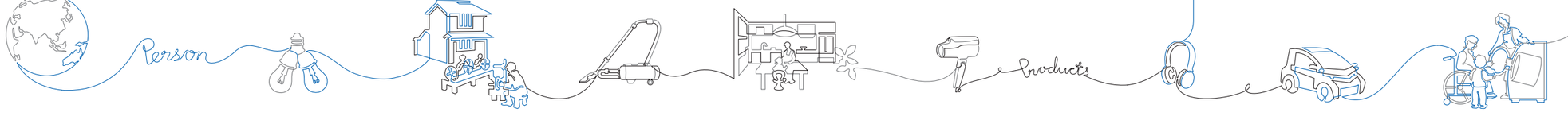
テレビ、ラジオ、白物家電など、昔懐かしい家電製品約400点を展示。幸之助の思い、開発者の熱意…製品たちが、静かに、そして熱く物語ります。

マスターピースギャラリー

「家事楽」「思いやり」「感動」「自由」「安心」「新定番」の6つのテーマで、くらしを豊かにしてきたエポックな家電製品、約150点を展示しています。

ヒストリーウォール

社会背景や時代のニーズに呼応したものづくりを行ってきた当社の歩みを、デザインとテクノロジーが融合した、幅16メートルの先進的な映像空間体験とともにお楽しみいただけます。

ミュージアムショップ

なつかしの家電製品や、ナショナル坊やをモチーフにしたオリジナルグッズなどをお買い求めいただけます。